

# 平成28年度 自然環境観察員 活動報告書

この報告書は、今年度より活動を始めた、福岡県内では初めての「那珂川町自然環境観察員制度」です。20名の自然環境観察員の方々が、1年間現地調査・観察をした成果をまとめたものになります。

那珂川町では、植物・昆虫・魚・水生生物など、数多くの発見がありました。まだ、活動を始めたばかりですが、今後、継続的に現地調査・観察を行い、那珂川町の自然環境の変化を調べていこうと考えています。今後は、住民の方を対象とした観察会を開催して、町の自然環境について関心・興味を持っていただける取り組みにしていきたいと考えています。

## 9月25日(日) 中ノ島公園



クロノコノマチョウ



ジムグリ

## 7月16日(土) 観音山

○観音山の樹木  
クスノキ、スダジイ、タブノキ、アラカシ、ヤマモモ等の高木が中心  
クロキ、クロバイ、ソヨゴ、ヒサカキ等の中低木も混生

## 2月22日(水) 裂田の溝



ツチガエル



カマツカ



アカハライモリ

## 6月18日(日) 五ヶ山ダム下流域



チラカゲロウ



ヒゲナガカワトビゲラ

## 8月27日(土) グリーンピアなかがわ



ヘラノキ



オオバウマノスズクサの実



## 9月24日(土) 五ヶ山ダム 稚児落としの滝周辺

○五ヶ山ダムに沈む植物  
希少なナメライモンジソウを調査したが、確認はできず、希少な植物の生育環境は限られている。

## 7月31日(日) 那珂川源流 脊振山



## 9月24日(土) 五ヶ山ダム貯水池内



国境石



稚児落としの滝





## 発見された植物・鳥・昆虫などの紹介



①キビタキ  
鳴き声・姿が、とてもきれいな鳥であり、初夏から山林で、複雑で美しいさえずりを聞かせる。メスは、別の種類と思われるほど地味な色合いをしている。



②シジュウカラ  
胸から腹にかけて黒く太いネクタイのような縦線がある。その線が、太い方がオス。冬になると、民家の庭によく訪れる。



③クロノコマチョウ  
翅は、茶褐色や黒褐色をしている。成虫は、6月～11月に出現する。薄暗い山林の林床付近に生息して、夕刻に活動する。



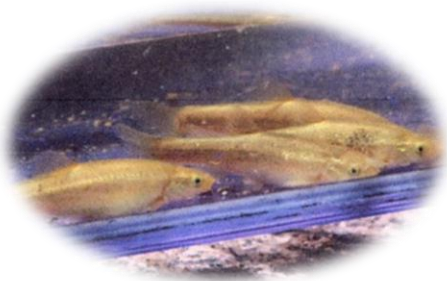
④ジムグリ  
日本の固有種のヘビで、無毒。体長は、70cm～100cmほどある。体色は、赤みかかった茶褐色で黒い斑点があるが、成長すると消失していく。主に、土の中や石の下にもぐって生息している。



⑤チラカゲロウ  
流線型をしており、体色は黒褐色。中央に白い縦筋があるのが特徴。



⑥ヒゲナガカワビゲラ  
大型で芋虫みたいな形をしている。きれいな河川の石の間に網を張って生息している。



⑦タカハヤ  
河川上流部や渓流に多く生息している。体色はうすい茶色で、鱗も細かい。地方名で「アブラメ」というのは、体色に由来している。



⑧セグロセキレイ  
黒い顔に白い眉斑がある。白い顔に黒の過眼線があるハクセキレイと似ている。着地の際、腰を上下に振ることが多い。



⑨ジャコウアゲハの幼虫  
体色は、黒褐色や黒色をしており、白色の帯がある。全身に太い突起があり、先端部分は赤い。ウマノスズクサ(毒草)を食べ、その毒を体内に蓄えたまま成虫になる。



⑩リンボク  
樹高5m～10mの常緑広葉樹。山地のやや湿った林内や谷沿いなどに分布。花は白色で9月～10月、実は黒紫色で翌年の5月～6月になる。表面は、深緑色で光沢がある。若木やひこばえの葉には、鋭く尖った鋸歯がある。



⑪オオバウマノスズクサ  
山地の林の中に生えており、5月～6月に花を咲かせる。葉の形は、互生でほぼ三角形をしているが、形の変化が大きい。果実は、俵型をしている。主に、本州～九州にかけて分布。



⑫ヘラノキ  
樹高8m～10mの落葉広葉樹。花は6月～7月、実は10月になる。自生は、非常に少なく、葉の基部は左右不相称で枝側の方が少し長く膨らんでいる。